

令和2年5月1日は神戸高等学校の第124回創立記念日です。

本校では「創立記念祭」として、創立記念日に「創立記念式典」、その前後に「文化祭」を実施しています。

当初の予定では、4月29日に文化祭を行い、自治会の生徒たちの運営のもと、先生方やPTAの皆様のご協力もいただき、文化部の舞台発表や神出鬼没、2年生による園遊会など、にぎやかで華やかな一日を過ごしたことだろうと思います。

そして、5月1日には、PTAや同窓会等から多くのご来賓にお越しいただき、盛大に創立記念式典を開催していたはずですが、記念講演には、本校31回生 夫 律子 様に「まだ生まれぬ胎児の脳科学に迫る！—世界初の胎児脳センターの現場から—」と題したお話をしていただく予定でした。

今年は、新型コロナウイルス感染による緊急事態宣言発令の中、全国の高校が臨時に休業している期間となり、残念ながら、この時期に従来どおりの創立記念祭を行うことができませんでした。

神高生としてどのように学校生活を送るか、とりわけこの難局の中でどう振る舞うかを考えるとき、母校神戸高校の歴史を振り返ることは、とても意義あることだと思います。

本校は、明治29年に兵庫県神戸尋常中学校として開校、明治34年に開校した兵庫県高等女学校とともに幾多の変遷を経ながら「神戸一中」「県一高女」として親しまれてきました。この両校が昭和23年の学制改革により統合して、現在の兵庫県立神戸高等学校となりました。この間、本校から羽ばたいた約4万5千名の卒業生は、各界各層、国内外のあらゆる分野で活躍されています。

また、近年では、平成16年度から文部科学省の「SSH（スーパーサイエンスハイスクール）」の指定を受けるとともに、平成19年度には総合理学科を設置するなど、理数教育の充実を図ってきました。昨年度は新たに、SSH科学技術人材育成重点校にも採択され、兵庫県における高校理数教育推進の中心的役割を果たしています。

普通科については、平成27年度から通学区域が拡大され、多くの中学校等から志の高い生徒が集う高校となり、新たな歴史を刻みはじめています。

本校はかねてから全人教育を標榜しています。本校に入学した生徒たちは、勉学、部活動、学校行事や自治会の活動のすべてに全力で取り組んでいます。

校花である春蘭の気品と、校木である楠のたくましさを持ち、「質素剛健」「自重自治」の四綱領のもと、何事にも真摯に全力で打ち込む姿勢は、かつてこの学び舎で学んだ先輩の皆様から変わらず受け継がれているものです。

今世界は、百年に一度の危機に見舞われています。最も苦しい状況の中で発揮されるのが底力です。神高生には、連綿と培われてきた底力があります。今こそ、神高生としての誇りを持って、四綱領の精神をかみしめ、それぞれの自己実現を目指して頑張り抜きましょう。

以上、創立記念式日の挨拶に代えたメッセージとします。